

4月の開室日... (注) 17日(金)のみ

<今月のオススメ本>

「涙の箱」 ハン・ガン作
きむふな訳
評論社

作者のハン・ガンさんは2024年にノーベル文学賞を受賞されている作家です。

詩人であり、小説家です。

この「涙の箱」は大人のための童話といわれています。

ノーベル文学賞の選考委員会は、授賞の理由を、過去のトラウマに向き合い、人間の命のつらさを浮き彫りにする強烈な詩的散文だと評価したとあります。

物語は「涙の箱」といわれ子どもが、なぜその箱に閉じられるようにしたか、ということから始まり、やがてひとりの涙を集める不思議なおじいさんに出会います。

子どもは成長するにつれて周囲の人が特別なところがあると言うために、まるで予想も理解もできないところで涙を流すのです。

あなたはどんなときに涙を流し拭か。

嬉しいとき、悲しいとき、哀しいとき、寂しいとき、辛いとき、悔しいとき、怒るとき、喜ぶとき、感動したとき、なぜかわからないとき...

胸の奥底に沈めていた、封じられていたものがある時も大切にしたい。

この物語は樹木が希望が見えてくる一冊です。ぜひ。



うさぎ文庫のスタッフの南條さんのところにもまたひとりお子ちゃんが生れました!! おめでとう!! 昨年からお子ちゃんも私たち!! に子供が増えました。おあはれちゃんたちは忙しくて大変だけど新しいのちを見守るのは幸せだね。たくさん絵本に出会ってほしい願うばかりです。

4月に進級(入園・入学)するみなさんへ
4/17の文庫でお祝いのお花をご用意します。南川に声をかけてね。

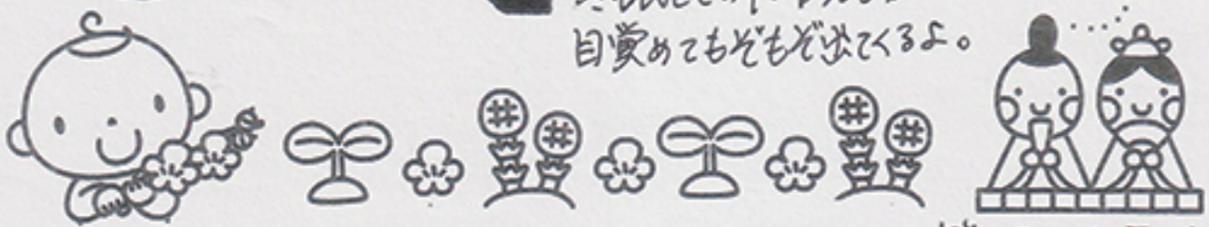
涙の中にも希望があるよ。空を見上げよう。

2026年 3月 3日

3月

今年の啓程も3月5日。

「蟄戸を開く」という意味で、地中で冬越しをしていた虫が土の中からはい出る様子を擬人化している中国の古い書物にある言葉だそうです。だんだん土が温かくなって土の中の姿が見られるよりにたつた。冬眠していたやえ草が目覚めてもともと出てくるよ。



2月の選挙の日にはびっくりする寒さ。雪のちらついたり、積もったりするところも大やみとびだね。

菊川はどの頃、秋田のノーモンスターを観に行き旅を予定していたが、現地の鉄道が雪で運休してしまい、仕方なくキャンセル。その代わりに友が箱根と浅草行きに変更企画してくれただけ、

いざ行ってみると、箱根も大雪の被害。2日前に送った菊川のトランクは高速道路が通行止にたつたため宅急便トランクの中を足止めを...。トランク探しに大さわぎしてしまいました。とまあ、結局は夜おやくに届きました。ヒヤヒヤの旅となりました。それでも過ぎてしまえばそれも話にすれば「楽しい?!」思い出話と列しました。大ピンチ!も視点を変えればGood!な